

臭気横引き配管の閉塞、解除方法！！！！



1

埋設処理槽の周辺に悪臭が漂う、このような現場を見ることがあります。この場合、臭気は屋上で排気されていないため開口マンホールより漏れ出ています。臭気が屋上に排気されない原因は、臭気埋設横引き配管が何らかの要因で撓み、そこに結露水が滞留し排気を妨げているためです。閉塞解消の方法は、アスファルトを切断しその部分を掘削し、撓み部分の配管を修正することが望まれますが、舗装部分の切断は大工事となります。



2

そこで、臭気配管内に滞留する結露水を引き抜き、臭気閉塞解除を試みました。写真1は、処理槽側からポンプの吸い込み配管を挿入し、滞留水を引き抜いている状況です。写真2は、臭気配管の屋上立ち上げ部より、吸い込み管を挿入し引き抜きの様子です。

ポンプは自給式ポンプを用い、吸い込み管は20φで臭気横引き管の撓み部分30m~40m先まで挿入し、滞留の水を引抜くことで閉塞は解消できます。実証の結果は良かったです。

再度の閉塞に備え、挿入した引抜き配管は配管内に設置しておくことも、次の閉塞解消の早期解消法の一つです。



臭気管の閉塞が解除されれば、屋上の排気は正常な状態を取り戻し、臭気は屋上で解放されます。

今度は、屋上に解放された臭気の強度が問題となります。処理槽内の臭気を極めて弱いものにすることが求められます。

以上の作業は、定期点検の範疇で実施することができます。

水物語 No14 ♪春のうらの♪ 隅田川は岩淵水門より東京湾まで！！



旧岩淵水門：赤水門



新岩淵水門：青水門

現在、「隅田川」と呼ばれている川は、もともとは入間川の下流である。1629年の荒川瀬替えにより荒川の本流となったが、洪水を防ぐために明治末期から昭和初期にかけて岩淵水門から河口までの荒川放水路が建設され、こちらが現在「荒川」と呼ばれています。一方、分岐点である岩淵水門より下流は「隅田川」に改称されました。すなわち、本家荒川は「隅田川」に、荒川放水路は「荒川」と呼ばれるようになったということです。

隅田川は、生活用水、農業用水、食料としての魚貝や海藻類の供給源、人や物資の輸送路として住民と深いかかわりを持ってきました。関東一円から利根川水系を経由して東京湾に繋がる隅田川は、その川岸や川に通じる運河の周辺に、多くの倉庫が立ち並び運送業や旅客業が発展したことが覗えます。

昔、荒川の本流・隅田川は、川幅が狭く、堤防も低かったために大雨や台風の洪水を防ぐことができず、しばしば氾濫し周辺は大洪水に見舞われました。中でも、1910年（明治43年）夏、関東地方は長雨が続いたため、荒川・隅田川及び主要河川が軒並み氾濫し、東京府や埼玉県などで甚大な被害を引き起こした。氾濫した水は岩淵町から志村に沿うところで約8mに達し、家屋の流出1500戸、浸水家屋27万戸、死者223人、行方不明245人、堤防決壊300箇所、橋梁被害200箇所にも及んだそうです。川の重要な役割を改めて思い知らされます。旧岩淵水門はそんな重要な役割を終え、愛らしい凜としたたたずまいで堂々として残っています。

ウィキペディアより引用

東京都中央区新川1-16-8 KSEビル 6F
汚泥ゼロ・臭気ゼロ
ハイブリッドシステム推進中！
株式会社クリーンテックサービス